

vol.28

# はじける こころ

- ◆新箕面市人権教育基本方針について .....1~2
- ~人権教育のこころと力~
- ◆3中いじめZERO .....3
- ◆人権教育研修⑤ .....4
- ◆考えてみよう .....5~6
- ◆人権教育のこれから .....7

げんげのとは：れんげ草が生い茂った草原のこと。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を咲かせます。また、れんげ草は緑肥として大地を肥やします。蓮に似たらしいれんげ草を、子どもたち一人ひとりの真実に見立てて、それが一面に花開く様子をお楽しみください。



## げんげののぺえじ

## みのおから世界へ！人権文化の花束を！

●写真募集！●

子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

### 人権教育のこれから

生きにくさを感じる日々は、人々のつながりの希薄さからきているように思います。私見ですが核家族化が引き金ではなかったのかと感じています。多くの家庭が小さな単位の幸せを求めてきた社会の中で、まず高齢者に孤独感が押し寄せ、いつ頃からか、子どもの描く家族画の中にひとりで食事をする姿が現れ始めました。地域や家庭で同時並行で孤立化が進み、誰も何かがしらず空虚さや不安感、疎外感、孤独感を感じる社会になってきたように思います。

以前、障害のある子どもの母親がその立場を「点でしかなく、線にもならない」と語ったことがあり、横のつながりや周囲の理解が得にくいことを語ったもので、今不登校の子どもと関わりながら、この言葉がそのまま当てはまるなあと感じています。

不登校になって、家庭の中に長く居るようになればなる程、他人の視線を過剰に感じるようになってしまいます。人目を気にして、学校のある時間は外出できなかつたり、帽子や前髪で自分の目を隠そうとします。また、ある子は自分が唾を飲み込む音までもが、他の人に聞こえるように感じると語ったことがあります。

一方、保護者も子どもの姿と自分の心との葛藤に疲れていきます。自分と同じ立場と気持ちで話せる人が、身内にもいない場合が多いようです。箕面市内には同じ立場の保護者が集える場を提供している学校や、適応指導教室もあるのですが、多くの不登校児童生徒と保護者は点でしかなく、線にもない気がするので。

ある年の三月、教え子が高校の卒業式を終え、「中学の頃の僕はみんなに対して完全にシャッターを下ろした、心の不登校状態やつた。先生達も夢をバカにした。でも唯一担任だけが理解してくれたから毎日登校できたし、高校で自分を取り戻すことができた。」と、電話の向こうで語りました。何年間もいじめを受けた結果、中学三年の仲間づくりでは間に合わない程、自分の心を分厚くガードし、周囲の心ない言葉に傷つくまいとしていた子どもです。自分の有り様に対する不安や悩み、疑問や意見を持つ子どもが安心して表明でき、意見の相違はあっても、自分事として受けとめ、みんなで解決する術を考えられるような集団づくりの積み上げの必要を感じます。

唐突ですがインクルーシブデザインが社会をデザインする人々の

考えとなつていきます。社会ではリアフリーに始まりユニバーサルデザインが提唱され受け入れられ、次に当事者と共に最後まで共に考え創っていくとういうのがインクルーシブの視点です。これは子どもたち一人ひとりがよりよく生きていくために必要な視点だと思つていきます。その視点を持つためには、子どもたちのかかえている課題を自分事として受けとめられるのかという、私たちの感性が問われるとも思います。

人権教育は特別な時間にだけあるのではなく、日々の授業や活動の中でこそ生きた教育として、子どもたちの中に蓄積されていきます。箕面市人権教育研究会と箕面市在日外国人教育研究会が掲げる「教育のすべてに人権の視点を」というスローガンの意味するところは、学校や社会の中で様々な課題を自分の意志とは関係なく背負わされた子どもたちを巻き込み、共に教育の営みを創造しようというものです。

つながりを大切にし、生きにくさを少しでも軽減できるような実践を積み重ねていきたいと思つています。

箕面市人権教育研究会 竹綱珠衣

人権教育推進会議情報誌 「はじける ところ」

発行 箕面市人権教育推進会議  
箕面市教育委員会  
人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010  
e-mail : edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp  
平成23年(2011年)3月  
人権教育推進会議委員  
八木晃介、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、小松かおり、阪東行子、姜信愛、守婦朋子、永田千砂、小関政子、奥谷俊彦、武本喜美子、下田あや子、齋藤史恵、竹綱珠衣、森崎直幸

「はじけるところ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。公開ホームページ：<http://www.city.minoh.lg.jp/edujiinken/jinken/jinken.html>

# 新箕面市人権教育基本方針について

平成23年(2011年)3月、箕面市の人権教育の新たな10年の方針となる、新箕面市人権教育基本方針(以下、新方針)が策定されました。新方針の最大のポイントである「つながり」について、人権教育推進会議等を通じて新方針策定に向け重ねてきた議論を紹介いたします。

## ① 現在の「つながり」について

子どもを取り巻く社会の人と人の「つながり」について、人権教育推進会議では、大きく2つの問題点が指摘されています。

一点目は、近年問題となっている、高齢者の孤立などを始めとする、つながりの希薄化が年代を問わず進行していることです。

「つながり」の希薄化は、大学生の様子からも実感できます。講義が終わると、学生が雑談をせずそそくさと帰っていく、欠席した講義のノートを借りる相手がおらず、前回の講義内容を教員に聞きに来るなど、皮肉なことに「差別すら起らない」ほど、学生どうしの関係が希薄になっています。

しかし、関係性の希薄化は差別意識の解消にはつながっておらず、問題を一時的に見えにくくしているに過ぎません。実際、「日常生活では陰を潜めている差別意識が、結婚の際に突然姿を現す」といったことが箕面市で

も起こっています。

二点目は、現在あるつながりの中には、必ずしも人権が根付いているとは言い難いものもあるということです。

異質な者やマイノリティが無視されたり、居づらさを感じたりするようないつながら、男性中心主義に基づいたつながりが見られます。

このようなつながりの危機的な状況を踏まえ、新方針では「つながりの再構築(つながり直し)」を最大のポイントとしています。

豊かな人権文化の担い手となる子どもたちの育成に向け、子どもたちの「生きる力」「つながる力」を培うために、子ども、教職員、保護者・地域がよりよいつながりを結んでいけることを目指しています。

## ② どのような「つながり」をめざすのか

新方針では、めざすべき「つながり」

## 新方針にもとづく平成23年度からの主な取組

新方針にもとづく、今年度からの主な取組は下記の通りです。

### 人権教育推進計画のまとめの構式変更

各学校園で、年度当初に学校、各学年、社会教育の3点について、年間計画を立てます。年度末のまとめでは、各学年の人権教育の取組の総括を行います。まとめには、子どもの変容や感想などの具体的なエピソードを盛り込みます。

#### カリキュラムの編成の留意点

- 小・中学校の9年間を通じて・・・  
「子どもの人権」「部落問題」「男女協働参画」「障害者」「在日外国人・国際理解」「その他のさまざまな人権課題」について幅広く学べるよう計画します。
- 1年間の学習を通じて・・・  
上記の6つの人権課題の中から、年間を通じて重点的に学習する課題を設定し、その課題についての学習を通じて他の課題にも通じる視点を得られるよう取組をすすめます。

### 指導内容・方法のファイリング

小中学校で入学年度ごとにファイルを作成し、人権教育の取組を保存します。

(ねらい)

- ・ 人権教育の取組を保存し、次年度以降の有効活用につなげる。(資料集的役割)
- ・ 子どもたちの学びの積み重ねを記録する。(カルテ的役割)
- ・ 小中学校の人権教育をつなげ、一貫したカリキュラムづくりを行う。

#### H20入学

1年	命
2年	仲間
3年	男女
4年	部落問題
5年	
6年	

「つながり」について、「人と人が互いの存在、互いの違いを認め合えるつながり」として見ます。  
自分とは異なる多様な考え方や背景を持つ人と接し、その人の考えを受け止めながら、自分も意見を言える力を「つながる力」として育てていきます。

## ③ 「つながり」を再構築するための方策・施策

### 子どもと子どもをつなぐ

子どもたちが自己肯定感・自尊感情を高め、自他ともに大切な存在であることを実感し、他者の良さを自分の生活や学習にいかせるよう取組をすすめます。

### 子どもと教職員をつなぐ

子どもたちが自ら主体的に考え行動することを学び、身に付けるよう教育活動をすすめます。また、教職員が子どもを一人の人格を持つ主体として大切に育てる環境のもとで、自分の意見をきちんと表明できる子どもを育み、その意見を受け止められることができる関係づくりに努めます。

### 教職員と教職員のつながり

学校園内はもとより、学校園所の垣根を越えて子どもたちの成長について

ジョンとプランを共有し、人権教育を推進するために、教職員どうしがより一層つながるための取組をすすめます。

### 教職員と保護者・地域のつながり

教職員と保護者・地域がつながることにより、学校園所における人権教育が一層広がりや深まりを増やそう、地域に開かれた人権教育を推進します。

### 子どもと保護者のつながり

豊かな人権感覚の育成には、保護者自身が偏見を持たないよう、差別をしないこと等人権を尊重する姿勢を子どもに示していくことが必要です。そのため、家庭においても互いの人権を尊重することが重要です。

### 地域の人と人をつなぐ

ライフステージに応じ、いつでも、だれでもが学べる機会の提供や自発的な学びの支援を行います。また、子どもたちの教育に対し、家庭や学校だけでなく地域も関わることで、子どもたちの地域への愛着や、地域の人の顔見知りとの関係づくり、コミュニティの大切さについての理解等を促進します。

### 人権教育研修の充実

人権教育推進会議の八木晃介会長(花園大学)を講師に、新方針についての研修を予定しています。その他の人権研修についても、新方針に基づいた内容となるよう、一層の充実を図ります。

### 人権教育を推進する体制の整備

箕面市人権教育研究会と連携し、同会の運営委員会が各校の人権教育推進の窓口としての役割を確実に果たせるよう体制を整備します。また、相互に持っている情報を共有し、新方針にもとづく研究活動を支援します。

人権教育のこころを力

### 第三中学校「いじめZERO」

新箕面市人権教育基本方針では、子どもたちが、安心して友だちとつながれる人間関係づくり・集団づくりの取組の重要性について記しています。学校生活の基盤となる子どもたちの豊かな関係の構築をめざし取組をすすめている第三中学校の生徒会のみなさんにお話を聞きました。

**Q 活動のきっかけは何ですか。**

昨年度、後期の生徒会役員が、生徒指導の俵積田先生と一緒に、活動の内容について話し合いました。その中で、三中のスローガン「信頼・友情・感謝」をもとにどんな学校にしていきたいかということを考え、学校からいじめをなくす「いじめゼロ」の活動をすることに決めました。

**Q これまでどんな活動をされているのですか。**

生徒会新聞「ZERO」を発行し、いじめゼロをアピールしています。「いじめをしない！」と宣言した生徒は、「いじめゼロパッシ」をもらえます。靴につけている人、中にしまっている人など様々な生徒がこの活動に参加しています。いじめZEROを意識して学校生活を送っ

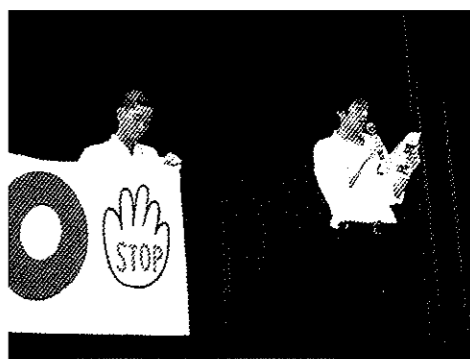


**Q 今の活動で目標としているものはありますか。**

大事なことは、クラスで孤立している子がなくなり、楽しいクラスや学校になること。陽キャ(積極的に人と関わる陽気なキャラクター)も陰キャ(陽キャの逆)も受け止め、学校生活が楽しく送れるようにするために、一番の問題のいじめをなくすことを目標にしました。いま四期続いています。この活動が広がって、楽しい学校になっていけばいいなと思っています。

**Q 活動をして、よかったな、うれしいなと感じるときはどんな時ですか。**

活動がラジオや新聞で紹介されて、地域の人や遠くの人などいろいろな人から手紙をもらい、学校

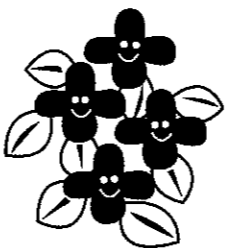


「南小学校でいじめゼロの取組を発表」

**Q 校外での活動も教えて下さい。**

の放送で手紙を紹介しました。その時は、活動をやっていて良かったなあと感じました。

「いじめゼロ」を訴えに、地域の小学校や幼稚園に行きました。小学校6年生が学校体験に来るので、その時にも発表をしました。尼崎市の全ての中学校の生徒会役員が集まった中でも発表しましたが、やっぱり三中来る子や小さい子に伝える方が楽しかったです。



### 西南小学校の児童の感想

いじめではないと思っていただけで、いじめなんだと思ったものがあつたので、やめようと思います。もしいじめられている人がいたら、勇気を持って止めようと思えました。これからもいじめZEROを広げてほしいです。

### 「引き出す力」

先日、箕面市立第三中学校での「いじめゼロ」の取組組みについて、生徒会の皆さん、担当教諭からお話を伺った。この取組組みを行う中で、常に担当教諭をはじめ、学校教職員が生徒たちの様子を日々見守り、予測されることなどを事前に察知し、生徒達の自発性、自主性を最大限引き出す工夫をされてきたことに敬意を示した。

同時に我々、児童、生徒の先輩である大人たちは彼らの持つ力を引き出す力を持たなくてはいけないと改めて感じることができた。  
人権教育推進会議委員 安東由紀子

### 人権教育研修⑥

## 「支援が必要な児童生徒を中心にすえた集団づくりのあり方」

1月31日に、大阪府教育センター人権教育研究室の黒田浩継指導主事を講師に迎え、市内の学校園の教職員を対象に行われた人権教育研修の内容をお伝えします。

### 子どもたちの傾向

近年の子どもたちの傾向として、人間関係の弱さ、自己肯定感を持ちにくい、感情のコントロールが苦手、共感性や信頼性が低い、生活実感が乏しい、生命尊重の態度や責任感が低いといったことが挙げられます。

こういった傾向を克服するため、学校における集団生活の中では、多様な人との関りを通して、お互いの存在を実感し、自己肯定感を育み、違いを認識しそれを尊重することが大切です。

また、協力しながら問題を解決する中で、人への共感や信頼感を回復し、生活実感を高め、生命尊重の態度を持つ、集団における責任感を身に付けることも大切です。



### 取組で大切にしたい視点

集団づくりの取組をすすめる上では、子どもたちに「暴力・いじめは絶対に許さない」といった原則をはっきり示すことが必要です。また、教育センター発行の「OSAKA 人権教育ABC」に紹介されているような集団づくりのトレーニングなども大変有効です。

集団づくりの取組の基礎となるのは、仲間を見つめ、話を聴き、自分の思いを語り、子どもたちがつながっていくという過程を経て

### 子どもをつなぐアクティビティー

- あいこじゃんけん、割りばしを支えよう、仲間の良いところを見つけよう! ああブレッシャー! ホツとする時、感情の言葉・気持ちを静める方法、いろんな見方、心の境界線、通り過ぎる人、Iメッセージで伝える、ピア・カウンセリング 等

人への信頼感を高めていくことです。

子どもはつながりを求めています。子どもがつながりやすい環境を意識的につくっていくことが大切です。

支援が必要な子どもが集団に位置づくためには、まず教師自身がその子とつながることが大切です。教師がどのようにその子に接しているかは、他の子どもたちのロールモデルとなります。次に子どもと子どもを意識的につなぐ取組を行うことによつて、子どもどうしがつながっていきます。誰を中心においてクラスを作るのかを明確にして取組むことが大切です。

### いじめへの対応

いじめが疑われる場合には、先入観を持たず、被害を受けた子どものペースに合わせながら、声をしっかりと受け止めることが大切です。また、フラインパシーを守ることで、加害者と離して安全を確保すること、二次被害を防ぐことなど、安心できる環境の確保が重要です。その上で、最終的にはその子どもの自尊心を育む支援が必要です。



いじめが起きてしまったクラスに対しては、いじめを絶対に許さないという姿勢を見せながら、日常的に子どもたちの様子を見守ることが大切です。いじめは被害者・加害者だけでなく、それを許してしまった周囲の子どもたちの問題でもあります。いじめをその集団の教育課題ととらえ、人権尊重の集団づくりにつなげることが必要です。

当日は80名を超える参加がありました。架空のいじめの事例をもとにしたグループワークでは、対応のあり方について参加者が討議する場面もありました。参加者からは「人権教育や集団づくりの基礎を改めて確認できた」「グループの意見交流が有意義だった」といった感想が挙げられていました。

## エレベーター、そのあかし

by かわの ひでただ

今年(ことし)は、季節(きせつ)がヘンだよ。ヘンなことも流行(はやつ)てるしね。火山(かざん)が噴火(ふんか)したり、動物(どうぶつ)が、病気(びょうき)になつたりね。いつもの景色(けしき)と、ちがう気がするね。

わたしの通(かよ)ってる学校(がっこう)もタイヘンだ。地震(じしん)がきても、大丈夫(だいじょうぶ)なように、学校中(を白(しろ)いシートをはって、工事(こうじ)をしてるよ。いつも見(み)てる学校(がっこう)じゃないみたい。でね、もうエレベーターもついたらだよ。今(いま)までは、二階(かい)までの、ちっちゃいスロープ(はあつただけ)だね。

わたしのクラスに、コウちゃんという、男(おとこ)の子(こ)がいるんだけど、わたしと大(だい)のなかよしなんだ。コウちゃんは、車(くるま)イスを使(つか)って、学校(がっこう)にきてるんだけど、三階(さんかい)の教室(きょうしつ)にいくときは、クラスのみんなで、コウちゃんを車イス(くるまいす)ごとかついで、ワッショイ、ワッショイと階段(かいだん)をのぼるんよ。しんどいけど、みんなハアハア息(いき)をしながら、おまつりだあってうれしそうだよ。コウちゃんも、アハ、アハって笑(わら)ってる。もうエレベーターができたから、わたしらのおまつりもなしになるんかなあ。コウちゃんは便利(べんり)になるんかなあ。

んが、からだの調子(ていし)の悪い(わるい)ひとと思(おも)われてるんだつたら、あのエレベーター(えいべーター)を使う(つか)うのは、コウちゃんだけになっちゃうな。わたしは、コウちゃんの車イス(くるまいす)をよく押(お)すけど、エレベーターのところまで押(お)して行って、コウちゃんがエレベーターに乗(の)ったら、わたしは、階段(かいだん)をのぼるんかなあ。そしたら、コウちゃんは、いつもひとりになっちゃうよ。」

と、わたし。

コウちゃんは、フンフンしながら、

「エレベーターなんて、誰(だれ)が使(つか)ってもいいんじゃないの。必要(ひつよう)なひとが使(つか)えばいいんだよ。どんなひとでも学校(がっこう)にこれるように、エレベーター(えいべーター)ができたんだから、いろんなひとが使(つか)えばいいんだ。ボクも使うけど、車イス(くるまいす)だから、エレベーター(えいべーター)だけを使(つか)いなさいといわれるのはやだな。ボクは、クラスのみんなにかついでもらって、ワイワイと階段(かいだん)をのぼるのがスキだよ。だって楽しいもの。大事なことは、階段(かいだん)をのぼる方法(ほうほう)を、ボクが選(え)

きこの朝会(あさかい)のときに、校長先生(がくちょうせんせい)が、

「みなさんの学校(がっこう)にも、やっとエレベーター(えいべーター)ができました。病気(びょうき)のひとや、からだの調子(ていし)の悪い(わるい)ひとのためのものだから、大事(だいじ)に使(つか)いましょう。エレベーター(えいべーター)は、遊(あそ)びの道具(どうぐ)ではないのです。エレベーター(えいべーター)で遊(あそ)んではいけません。元氣(げんき)なひとは、階段(かいだん)を使(つか)いましょう。」

と、お話(はな)しされたんだけど、みんな、分(わ)かったんかなあ。珍(めづら)しいから、みんなエレベーター(えいべーター)のところ、ガヤガヤしてるんよ。

わたしも、どんなになつてるんかなあ、見(み)にいったんよ。そしたらね。エレベーター(えいべーター)のとびらのところに、大(おお)きな張り紙(はりがみ)がしてあって、

「元氣(げんき)なひとは、健康(けんこう)のために階段(かいだん)を使(つか)いましょう。エレベーター(えいべーター)で遊(あそ)んではいけません。」

って、書(か)いてあったんよ。わたしは、クラスに帰(かえ)って、コウちゃんと、コソコソ、ヒソヒソ。

「あんな張り紙(はりがみ)は、ヘンだよ。もし、病気(びょうき)のひとだったら、学校(がっこう)にこないもん。コウちゃんは、車イス(くるまいす)だけど、元氣(げんき)だよ。だつたら、コウちゃんは、階段(かいだん)を使(つか)わないといけないよね。もしコウちゃん

ら、べるってことじゃないのかな。かついでもらうのも、スロープ(はあつただけ)のエレベーター(えいべーター)を使う(つか)うのも、みんなが一緒(いっしょ)にいるためなんだからね。そう思うけど、ちよつとエラそうかなあ。」

って、コウちゃんは、ふんわりと笑(わら)ったんよ。そうだよ。みんな仲間(ななかま)なんだから、一緒(いっしょ)なんだよね。そのためのエレベーター(えいべーター)なんだ。ウン、なにかストンとした、わたしたつたんよ。あつと、終わりのチャイム(ちやいむ)がなつてるよ。

学校(がっこう)からの帰り道(かえりみち)コウちゃんとわたしを追(お)い越(こ)したジョギング姿(すがた)のおじさんの顔(かお)を見て、めつちや笑(わら)つちやつた。だって、

「健康(けんこう)のためなら、死(し)んでもいい。」っていうような、キツイ顔(かお)をして、走(はし)っているんだもん。

夕日(ゆうひ)の光(ひかり)の中で、コウちゃんの車イス(くるまいす)の影(かげ)が、歩道(ほどう)に長(なが)くくびてたよ。

◆ わたしって、どんな子(こ)なんだろう?

◆ あなたの学校(がっこう)には、エレベーター(えいべーター)がありますか?

◆ あなたの友達(ともだち)に、「障害(しょうがい)があるひとはいますか?」

◆ あなたのクラス(くらす)の仲間(ななかま)には、どんなひとがいますか?

◆ バリアフリー(ばりあふりー)という言葉(ことば)を知(し)っていますか?

◆ なぜ、コウちゃん(こうちゃん)の車イス(くるまいす)をみんなでかつくのが楽しいのかな?

◆ 学校(がっこう)の安全(あんぜん)について、先生(せんせい)と話(わ)し合(あ)いますか?